

特集・学園めぐり●駒澤学園の巻

# 禅の国際化に貢献する女子大学をめざして

駒沢女子大学理事 事務局長 長尾通之

道元禅師の教えを建学の理念として昭和二年に設立された駒澤学園は、来る平成九年に創立七十周年を迎えようとしています。本学園のめざす女子一貫教育を完成するものとして、また禅を建学の精神とするわが国唯一の女子高等教育機関として平成五年に設置された駒沢女子大学は、その記念すべき年度に第一回卒業生を世に送り出すことになり、大学設置のために粉骨碎身した設置委員の一人として、感慨も一入であります。

駒沢女子大学の設置はたんに、幼稚園、中学校、高等学校、短期大学からなる本学園を、女子総合学園としての一貫教育完成へと拡大したというような、いわば学園沿革上の特記事項に止まるのではなく、明確な時代的、社会的要請に応える意義深い事業であると確信しております。この背景に、女子の進学率上昇、高学歴志向、社会進出というわが国の社会状況があることは申すまでもありません。さらに国際化、情報化の趨勢が男女を問わず大学卒業者に新しい知識



群石むざたに校内校

と技術を求めていることは明白であり、一学部（人文学部）、二学科（日本文化学科、国際文化学科）から成る駒沢女子大学のカリキュラムにおいても、それらは最優先の学習要素として位置づけられています。

しかし、禅を中心とする仏教主義の女子大学によってわたくしたちがめざすものは、来るべき「心の時代」にふさわしい新しい人間像の育成であります。禅はその精神的価値の原点であ

り、自然と伝統への再認識を通して高い人間性を養う道であります。いま、世界は国家と民族のエゴによる紛争に明け暮れ、繁栄と快楽を追求するあまり、かけがえのない自然を破壊して省みません。明日を担うべき若者たちも物質主義と拝金主義に毒されています。この現実に立つて二十一世紀の世界を展望するとき、われわれ大学人が志すべきものは、地球上のすべての国家、あらゆる民族の尊敬を集めるに足る、幅広い知識とたおやかな心との真の教養を身につけた若い日本女性の育成であります。

そのために本学のカリキュラムでは、仏教化学科では仏教部門として禅学と禅文化に関する講義や演習をはじめ、正法眼蔵、典座教訓など禅籍を学ぶ科目が重点配置され、本学の特色を作っています。そして仏教部門の周辺に歴史、文学、美術、言語の諸部門を配し、日本文化を

総合的に学習するよう構成されています。国際文化学科では、必修の仏教学のほか、専門科目の中に宗教文化史としてキリスト教、イスラーム教と並んで仏教が設けられています。もちろん、国際関係、国際コミュニケーション、地域文化、比較文化の各部門が、外国語とともに中心になります。また、両学科ともに、年間を通じて本学が主催する仏教行事や坐禅実習、永平寺参拝旅行等に参加する機会が用意されています。

仏教と禅文化の国際化は駒沢女子大学の掲げる大目標の一つであり、本学の卒業生を海外に送り出すだけでなく、世界の、とくにアジアの若い女性たちを留学生として積極的に受け入れ、禅の精神を基礎とした教育を実施することも、その目標を達成するための重要な方法と考えております。現在すでに十名ほどのアジア人留学生が日本人学生と机を並べて学び、ともに坐禅

を実践しています。国際交流を通じて異文化を理解し合うことが、世界の平和と進歩に貢献するとの確信のもとに、仏教と禅の精神を中心にした大学教育とその成果を国際的に展開する、これが駒沢女子大学の理想であり、最終目標でもあります。



坐蒲がおよそ六百個用意されている